

特集

君はブランド里芋

伊予美人を知っているか

愛媛の「愛」あるブランド産品認定
農林水産大臣賞受賞

日本三大局地風の「やまじ風」が吹き下ろす本市では、その強風に耐えることができる「根もの野菜」の里芋が古くから栽培されています。令和4年度に本市で収穫された里芋は、約4000トン。全国第4位の里芋収穫量を誇る愛媛県で本市は、その4割以上を生産する県下一の里芋生産地です（令和4年度実績）。

「伊予美人」の名で出荷される本市の里芋は、銅山川の豊かな水、瀬戸内の温暖な気候や肥沃な土という「うまの大地の恵み」を受けて育ったブランド里芋です。伊予美人は、白く柔らかい肉質で粘りが強く、ほのかで優しい甘味があると市場や消費者から高く評価されています。

生産者、JA、行政による「オール愛媛」で、日本一有名なブランド里芋を目指す「伊予美人」。その取り組みと魅力を紹介します。



② 収穫

9月中旬～5月上旬

瀬戸内特有の温暖な気候で土の凍結が比較的小さい愛媛県では、里芋を越冬させることができます。収穫期間は9月から翌年の5月までと長く、秋のお月見や冬のおせちなど、市場の需要に合わせて収穫・出荷することができます。

また、他の野菜のように短期間で収穫する必要がないことから、生産者のペースで作業を進めることも可能です。

伊予美人成功のヒミツ



今年は、市内24か所の畑で試験掘りが行われた

試験掘り
収穫量・品質をチェック
JAでは、収穫期を前に、その年の収穫量や品質などを想定する「試験掘り」をします。
決められた畑から里芋を持ち寄り、前年と比較しながら生育状況を確認します。試験掘りの結果は、生産者にフィードバックされ、伊予美人の品質・収穫量の向上に役立てられます。

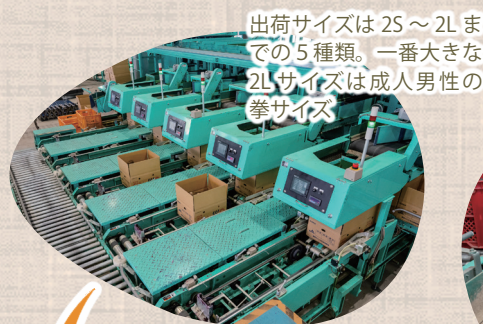


③ 選果・出荷・販売

9月中旬～5月上旬

収穫された伊予美人は、土居町無崎にある「愛媛さといも広域選果場」に持ち込まれ、熟練スタッフの目で「秀品」と「優品」に選り分けられます。

選り分けられた伊予美人は、機械によってサイズごとに箱詰め（10kg単位）され、その日のうちに中四国や関西、関東に向けて出荷されます。



出荷サイズは2S～2Lまでの5種類。一番大きな2Lサイズは成人男性の拳サイズ



最盛期には、1日で30トンが選果される

出荷された伊予美人は、最短で2日後に店頭に並びます。

JAでは、全国各地の青果市場や産業祭などの各種イベントで、いもたきの試食会を行い、伊予美人の販売を促進しています。

産直市「ジャジャうま市」などで販売中！



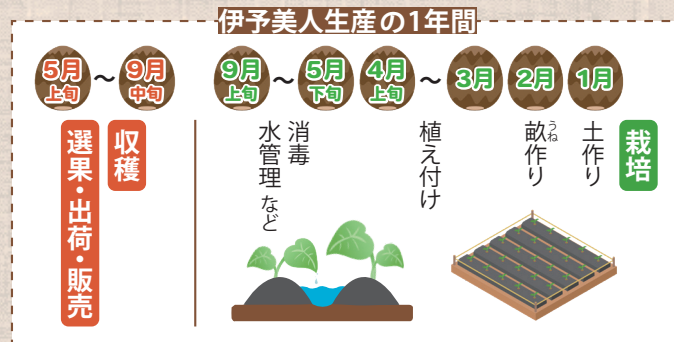
出荷調整用冷蔵庫

需要に合わせて出荷
選果場の冷蔵庫では、箱詰めされた伊予美人を保管することができます。
長雨などで収穫できないときでも、安定して出荷できることが、市場からの高い評価につながっています。



ダンボール2500箱分の伊予美人を保管できる冷蔵庫

伊予美人成功のヒミツ



① 栽培

1月～9月上旬

栽培は、植え付けから収穫まで、雑草予防の効果があるマルチシートを掛けた状態で栽培する「全期間マルチ栽培」が主流です。

伊予美人の生育に大きく影響するのは「水」です。天候次第では、2、3日おきの水掛けが必要になるなど、水の管理が重要です。



銅山川の豊富な水資源のおかげで、雨が少ない年でも安定して栽培できる



疫病対策の消毒も大切な作業



6月頃

植え付けから1か月程で芽を出し、収穫する頃には大きいもので2mになる



8月頃

伊予美人成功のヒミツ

機械化一貫体系

栽培作業の省力化へ

春から秋にかけて行われる里芋の栽培は、「暑さ」や「重労働」が生産者確保の課題でした。

JAや県四国中央農業指導班は、肥料まき・畝作り・マルチシート掛けを、1回の作業で行うことができる「機械化一貫体系」を確立し、徹底的な作業の省力化を進めています。



機械を導入したことで、栽培作業の負担は大幅に軽減された

伊予美人の名付け親

うま農業協同組合 特産部会長

宝利義博さん（寒川町）



1954年 徳島県鳴門市生まれ。30歳の時に本市に移住。2010年から現職。

本市の特産品「伊予美人」は、従来の主力品種「女早生」を品種改良して誕生しました。新品種の里芋の特徴を市場に分かりやすくPRするため、白くきめ細やかな肉質と丸く整った形から「伊予美人」と名付けました。

伊予美人を多くの人に食べてもらうために、生産者、JA、行政機関が協力して普及に取り組んできました。そのかいあって、伊予美人は愛媛を代表する特産品になりました。

自然を相手にしているので、栽培は決して楽ではありません。しかし、近年では機械化が進み、また、農作業をサポートする体制も構築されています。

本市、そして愛媛を代表するブランド里芋「伊予美人」を、私たちと一緒に栽培してみませんか。



うまいぞ伊予美人

JA うまオススメレシピ

蒸しあげ雑炊

材料 (6人分)

米……………2合
油揚げ……………1枚
ダイコンの間引き葉……………400g
伊予美人……………400g
えびじゃこ (小えび) ……………300g
粒みそ……………150g弱
いりこ……………適宜

作り方

①ダイコンの葉をゆがいて、1cm 幅に刻む。米は洗ってざるにあげておく。②えびじゃこの頭と殻を取る。頭と殻をいりここと合わせて煮だし、だし汁を6カップ分作る。③伊予美人の皮をむき、2cm 角とそれより小さいサイズの2種類に切る。④油揚げを縦に半分に切り、5mm 幅に切る。⑤厚めの鍋にダイコンの葉、伊予美人、えびじゃこ、油揚げ、米の順に入れ、みそと②のだしを加えて強火にかける。⑥沸騰したら中火で8分、弱火で15分炊く。⑦火を止めたら、全体を混ぜて蓋をし、15分蒸して完成。

令和3年放送 NHK「お取り寄せ不可!! 列島縦断宝メシグランプリ2021」で「グランプリ」を受賞した「蒸しあげ雑炊」のレシピを紹介します。

食べると気持ちまで温まります。ぜひ作ってみてください。

これからの季節にピッタリのメニューです。

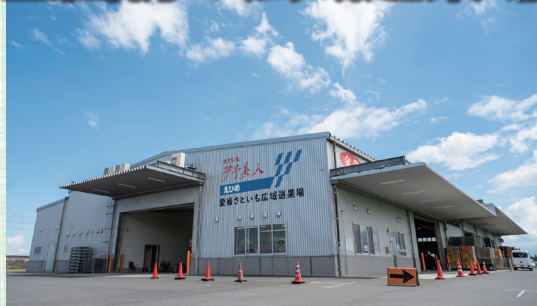
JAうま 営農経済部 生活燃料課

大久保 佐紀子 課長

受賞した番組で調理を担当

井川 和子 さん

全国初の広域選果場



愛媛さといも広域選果場 (土居町蕪崎)
2019年3月22日稼働開始

愛媛のブランド里芋として県内の生産者に広がり、市場でも高評価を得た伊予美人でしたが、課題も見えてきました。伊予美人を取り扱うJA間で選果基準にばらつきがあり、品質やサイズが異なる伊予美人が同じ区分に分類されて市場に出始めたのです。その一方で、市場からの出荷量拡大の要望に、それぞれのJAでは対応できなくなっていました。

と東予各地のJAが協力し、選果から出荷までを一か所に集約した「愛媛さといも広域選果場」を整備しました。一品種の選果場を広域で整備した、全国初の事例です。

また、大型の冷蔵庫を整備し、長雨などで収穫ができないうちも、安定して出荷できるようにしました。他にも、親芋から子・孫芋を切り離したり、泥を落としたりできる設備を備え、生産者の前処理作業の負担を大幅に軽減しました。

JA うま営農指導販売課長

鈴木 哲也 さん

2001年JAうま入組。豊岡経済センター次長や愛媛さといも広域選果場次長を経て、2024年4月から現職。2018年から「愛媛さといも広域選果場」の整備に携わる。



苦節20年「伊予美人」誕生秘話



JA うま代表理事組合長

合田 久 さん

1982年 豊岡農業協同組合 (現・JA うま) 入組。営農振興課長や営農経済部長、代表理事専務を経て、2021年6月から現職。「伊予美人」の開発に尽力した。

伊予美人が誕生する前、本市の里芋は「女早生」という品種でした。女早生の品質と収穫量を安定させ、生産者の収益を上げようと、品種改良に取り掛かったのは、今から35年前のことでした。

品種改良は、県農業試験場 (現・県農林水産研究所) を始めとする行政機関や生産農家との共同で進められました。市内で栽培された女早生から優良系統を選抜し、どここの畑でも同じ

結果が得られるようになるまで、時間を費やして改良を続けました。そうして誕生したのが「愛媛農試V2号」、後に「伊予美人」と名付けられる品種です。JAうまでは、誕生した新品種が愛媛のブランド里芋となるよう、苗を大量増殖させて生産者へ配布。2006年から3年掛けて女早生から新品種に置き換えました。

宝利義博さんによって名付けられた「伊予美人」は、2007年にJA全農えひめによって商標登録されると、すぐに市場関係者から高い評価を受けました。同時に、伊予美人は東予地域の里芋生産者に順調に普及していきました。こういった取り組みが評価されて、2014年に、農林水産大臣賞を受賞しました。

これからは行政や生産者、市場と連携しながら、「伊予美人」のブランド力をより高め、消費の拡大につなげていきます。

伊予美人に会いに行こう

四国中央市産業祭



農産物展で伊予美人の品評会を実施。「うまの大地の恵み」をその目で見てください。

11.16 (土)
10:00~16:00
11.17 (日)
9:00~14:45

会場 伊予三島運動公園体育館 ほか
ジャジャうま広場 (中之庄町)
※ 28 ページに関連記事

JA うまグリーンフェス



今年も恒例の大鍋で作った「いもたき」を販売。ぜひ食べに来てください。

問い合わせ先
JAうま営農指導販売課 24・2311